

令和 6 年 3 月 31 日

令和 6 年度 学校関係者評価報告書

学校法人中村学園

専門学校静岡電子情報カレッジ

文部科学省「専修学校における学校評価について」による学校評価ガイドラインをベースとして自己点検・評価を実施してまとめた「令和 6 年度自己評価書」を元に、令和 7 年 3 月 11 日、学校関係者評価を実施した。

文部科学省「専修学校における学校評価について」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1332632.htm

専修学校における学校評価ガイドライン

令和 6 年度学校関係者評価委員及び事務局

<企業>

常葉 英一郎 様 株式会社アス 代表取締役

池谷 和彦 様 SSB ソリューション株式会社 専務取締役

五十嵐 卓 様 株式会社システムソフィア 理事

<卒業生>

知又 史郎 様 静岡情報処理センター株式会社

医療ソリューション事業部 システム部

櫻井 幸寿 様 株式会社ケアコネクトジャパン

業界を変える一歩先行くサービスをサクサクどんどん作る部 部長

<事務局：本学教員>

中村 徹 理事長・校長

有賀 浩 副校長・教育部長

中村 健太郎 教育改革推進室室長

IT ゲーム&ロボットシステム学科 学科長

五味 正太郎 音響&映像メディアクリエイト学科 学科長

小林 昌人 企画広報室長

原木 伴美 教務課長

1. 評価項目別学校関係者評価

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

(1) 教育理念・目標

評 価 項 目	評価	外部評価
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4	4
・学校における職業教育の特色は何か	4	4
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3	3
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	4
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	4

①課題

- ・入学前指導（ステップアップレッスン）や年度当初におけるアドミSSION・ポリシーの徹底、理解の指導が年間通じて必要。
- ・Web、SNS 等による教育内容の見える化、情報発信。
- ・教育課程編成委員会で出た意見のカリキュラムやイベントへの反映。

②今後の改善方策

- ・教育課程編成委員会の意見をもとに、年度末までに具体策を策定・実施していく。その結果を年度末の教育課程編成委員会で報告する。
- ・具体的な項目（「～ができる」を満たした場合、アドミSSION・ポリシーに合う人材であると言える項目）の一覧化ができたので、実施検討を行う。

③特記事項

- ・前期末、年度末、年 2 回の自己点検評価、年 2 回の学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会の実施。学校関係者評価の公表（専修学校としての義務）。
- ・月刊の機関紙・CAN ジャーナルを通じて、学校の様子を各家庭にも伝えている。
- ・シラバス、評価基準は公式ウェブサイト公開済（「高等教育の修学支援新制度」への対応）。
- ・アドミSSION・ポリシーの理解を授業等も踏まえて促すことができたので今後も継続する。

(学校関係者評価委員による評価)

人を変えるのは難しいが、アドミSSION・ポリシーに共感してもらえるように、講師がキャラを濃くして学生を染めていく必要がある。

(2) 学校運営

評 価 項 目	評価	外部評価
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	4
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	4

・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	4
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	4
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	4
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	4
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	3

①課題 ・学生データを一律管理ができていない。
②今後の改善方策 ・学生マネジメントシステムの事例を調査し、データの一律管理方法を検討する。 ・ネットワーク出願の情報をうまく学生データに連携する仕組みをつくる。
③特記事項 ・なし

（学校関係者評価委員による評価）

・ぜひ DX 化を図ってほしい。また、システムづくりに OB、OG を使ってみてはどうか。要件定義の演習として適切だと思う。テンプレを作っておけば、毎年教材になるのではないかな。また、AWS 等のクラウドサービスも使用するいい機会にもなる。

（３）教育活動

評 価 項 目	評 価	外部評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	4
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	4
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	4
・授業評価の実施・評価体制はあるか	3	3
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	4
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	4
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	4

・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3	3
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3	3
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3	3
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	3	3

①課題 ・年ごとに学生のレベルの差異もあり、実践的な職業教育が安定して行えない。 ・入学時に、基礎学力、ヒューマンスキルが低い学生が目立つ。 ・留学生、心身症等の持病をもつ学生、知的障害等の学生に対する個別対応。 ・教員の指導力向上のための研修受講が主に各教員の裁量に任されており、組織的な課題解決のための研修としては不十分な面がある。 ・常勤・非常勤ともに教員が不足している。特定分野の能力に長けた教員の確保に難航。
②今後の改善方策 ・入学前課題などを再考し、基礎学力やヒューマンスキル、また学ぶ意欲をある程度上げた状態で、テクニカルスキルの学習を進めていく。 ・インターンシップ企業・業界団体の連携を深め、学生のレベルも相談し進めていく。また、2年生と共に1年生も同じ活動に参加させる。 ・企業、企業団体、各種団体と連携をしたロールプレイを多用し、実務に近い条件を経験できるようにする。 ・福祉医療の教員が行っているコミュニケーション概論のような授業を定期的を実施する。 ・総合的な学力を早めに把握できるようにする。個々の面談を定期的に行う。 ・教員の指導力向上に関する研修は、いくつかのテーマから現場のニーズが大きいテーマを選び出し、カリキュラム設計から運営までを、福祉医療と共に運営管理する体制を作る。 ・専門的な技術・知識を身に付けるための研修を計画実施する体制を作る。 ・要員確保を模索、確保する。
③特記事項 ・AI やデータサイエンスなどの先端技術や、イベント関連企業のニーズに合わせた照明技術に関するカリキュラムの追加・実施を行えるようにした。 ・市内のIoT開発企業での研修を学生たちに受けさせることができた。卒業生でもある社員の指導により、業界の仕事のイメージづけ、ものづくりの現場見学など、貴重な経験が積めた。 ・静岡市景観まちづくり課との連携により、3D都市モデルを使用し、ゲームを制作。地域のイベントにて子供達に遊んでもらった。

- ・静岡県警からの依頼を受け、子どもの防犯のための啓蒙動画制作を行った。県警のYouTubeチャンネルにて公開予定。
- ・静岡市内の施設を指定管理する企業より依頼を受け、施設の公式サイトや公式ロゴ制作を行った。今年オープン予定。

(学校関係者評価委員による評価)

地域団体との連携も良いが、マイクロソフトなど、大手企業が学生支援を行っているし、提案もしてくれる。一度声を掛けてみてはどうか。

(4) 学修成果

評 価 項 目	評価	外部評価
・就職率の向上が図られているか	4	4
・資格取得率の向上が図られているか	3	3
・退学率の低減が図られているか	4	4
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	3
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3	3

①課題

- ・就職活動に対して、遅滞する学生が、ある一定層存在する。
- ・国家資格の資格取得率が上がらない。
- ・卒業後の進路変更やキャリアアップの情報の入り方に偏りがあり、一部の卒業生の動きしか把握できていない。

②今後の改善方策

- ・個別に面談を行ったり、企業を見学させたりなど、ギャップを少しでも減らしていく。また、卒業生が活躍している企業とのマッチングを増やせるような機会を作り、卒業生と共に就職活動を行わせる。
- ・国家資格の資格取得者を増やすため、次のような取り組みを継続していく。
- ・入学前よりやる気のある入学者に対して早々に問題集や過去問題による学習を実施する。
- ・実技の授業でも国家資格の問題にも活用できるようなカリキュラムを組み、座学が多くならない学習ができる仕組みを作る。
- ・CAN スカラシップ生より始まった勉強会を利用し、他学生もこの勉強会を利用できるようにする。
- ・卒業後の進路変更やキャリアアップの情報収集ができるよう、SNSや同窓会のホームページを整備し、活用していく。

③特記事項

- ・卒業生を囲む会、オープンキャンパスなどに招く卒業生の近況把握や選抜を学科全体で行っている。

(学校関係者評価委員による評価)

・IT パスポート試験に受かっていないと IT 業界では厳しい。勉強させないといけない。やらせるのではなく、楽しいと思わせることが不可欠。将来の自分のために技術を磨く、知識を増やす、そのことが楽しいと思えるようなモチベーションを持たせる必要がある。

(5) 学生支援

評 価 項 目	評価	外部評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	3	3
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	4
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	4
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	4
・学生の生活環境への支援は行われているか	4	4
・保護者と適切に連携しているか	4	4
・卒業生への支援体制はあるか	3	3
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3	3
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	4

①課題 ・担任レベルで対応できない相談の場合の対応方法を検討・見直す。 ・卒業生への支援体制を整備してはいるが活用される場面が少ない。学校として卒業生との繋がりも大切なため、活用されるように見直していく。 ・既卒・社会人経験者を学生として受け入れている以外、リカレント、リスキリング教育の実施ができていない。 ・中学校・高校とのキャリア教育の連携が一部に留まっている。
②今後の改善方策 ・担任以外のカウンセラーの検討。 ・卒業生とのつながりが、卒業時の担任の個人 SNS だけとなってしまう。学校が管理できるような外部システムを取り入れられないか検討する。 ・産学連携先や就職先、教育課程編成委員の意見を中心に、人材養成に対するニーズを聞き出し、カリキュラムに反映。企業や求職者にも提供できるように検討する。
③特記事項 ・来年度、静岡中央高校と連携ができる予定。 ・来年度、清水国際高校の軽音楽部と連携ができる予定。

(6) 教育環境

評 価 項 目	評価	外部評価
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	3
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	4
・防災に対する体制は整備されているか	4	4

①課題 ・学生人数が例年より増えたためネットワークの整備が必要
②今後の改善方策 ・両館のネットワーク環境が多少整備された。しかし、根本のネットワークが変わっていないため、速度や接続問題などまだ改善箇所が残っている。
③特記事項 ・海外研修を数年ぶりに行え、海外での研修を無事に終えることができた。 ・毎年度初めに「学校保健計画」「学校安全計画」を作成・整備している。 ・毎年度初めに防災マニュアルの内容確認・更新を行っている。 ・毎年度初めに新入学生のための飲み水（ペットボトル）、非常食を購入、予め決めている場所で保管・管理している。 ・毎年度、学内のパソコンで利用するセキュリティ・ソフトウェアのライセンスを更新している。

（学校関係者評価委員による評価）

海外研修修学旅行の成果は本学の SNS で確認できた。外国語を学ぶことへのきっかけになれば更に良い。

（7）学生の受入れ募集

評 価 項 目	評価	外部評価
・学生募集活動は、適正に行われているか	4	4
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	4
・学納金は妥当なものとなっているか	3	3

①課題 ・オンラインでの学校説明などで使いたい、わかりやすい説明動画コンテンツが不足している。 ・IT系を中心に、オープンキャンパスへの参加者が少ない。 ・留学生の入学者が途絶えている。
②今後の改善方策 ・学科ごとの説明動画を作成し、オンライン説明会などで活用する。

・YouTube や Instagram など在校生、卒業生が制作したコンテンツを引き続きアップロードしていく。 ・学科内のみではなく、教職員全員が各学科の特長をよく理解し、オープンキャンパス、高校訪問、出前講座、口コミ等で分かり易くアピールできるようにする。 ・オープンキャンパスの体験では、以下の点を意識して計画、実施する。 ① 職業観を持たせる ② 実際の授業に近い体験を実施する ③ 専門学校生活への不安を減らす ④ 大学との差異、本学の良さを伝える ⑤ ほかの参加者との関わりを持たせ、楽しんでもらう ・本学の宣伝やオープンキャンパスの告知方法を検討する。 ・各イベント等の活動をマスコミに投書する。 ・留学生に対する告知を強化する。
③特記事項 ・オープンキャンパスや学校生活の様子、学校行事等、Instagram への投稿を、企画広報室主導により積極的に実施している。 ・SNS を通じて日ごろから授業の魅力、学校行事、学科独自のイベント等を公開できている。 ・両学科とも、厚生労働省の実施する教育訓練給付制度（専門実践教育訓練指定講座）対象学科となった。社会人の再チャレンジの選択肢の1つとして体制を整えている。 ・IT ゲーム&ロボットシステム学科は「留学生キャリアアップ形成促進プログラム」の認定を受けている。 ・Google 検索への広告設置を行っている。 ・オープンキャンパスでは、在校生、卒業生の若手エンジニア、長年業界で活躍するスペシャリストによる、段階的な職業イメージの強化と本学出願までの誘導を計画・実施をしている。 ・オープンキャンパスへの集客増を図るため、DM を作成・発送している。オープンキャンパスでのアンケートにより、DM の効果を確認・把握している。 ・HP 新規制作中。来年度運用開始予定。 ・オンライン出願の環境を整備、提供している。 ・物価高や光熱費、通信費、教材費などの諸費用の高騰、人件費の増大、設備老朽化、18 歳人口の減少に伴う学生数の減少に伴い、来年度以降、学納金を適正な金額に引き上げたい。

（学校関係者評価委員による評価）

- ・見える化をより図り、高校訪問時に見てもらって理解しやすくするのも必要。

・音響イベント業界は楽しくなるまでにものすごく時間がかかる。やりたいことがすぐできるわけではないし、意見が通らないことも多い。これらを業界の反省点とすれば、学生募集も向上するだろう。

(8) 財務

評 価 項 目	評価	外部評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	4
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	4
・財務について会計監査が適正に行われているか	4	4
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	4

(9) 法令等の遵守

評 価 項 目	評価	外部評価
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	4
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	4
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	4
・自己評価結果を公開しているか	4	4

①課題
・個人情報保護法の理解 ・個人情報保護に基づいた IT 活用
②今後の改善方策
・職員会議、学科・部署会議で法令遵守の確認を常時行う。
③特記事項
・個人情報の取り扱いについて、入学当初に確認書の提出を義務付け、各家庭の理解を得ている。
・個人情報に係る諸データは、全てパスワードで保護している。
・年度当初に年間の重点目標を設定。半年ごとに学科・部署で点検を行い、次期への課題・改善策をまとめ、反映させている。年2回の自己点検評価の結果に基づいて学校関係者評価委員会を開催。学校関係者評価委員から評価を頂き、まとめ、オフィシャルウェブサイトで公開している。
・高等教育の修学支援新制度認定を受け、成績評価基準、シラバス等について、最新の内容のものをオフィシャルウェブサイトで公開している。
・職業実践専門課程認定学科として、毎年7月31日締めで別紙様式4を更新、オフィシャルウェブサイトで公開している。

(10) 社会貢献・地域貢献

評 価 項 目	評価	外部評価
---------	----	------

・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	4
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	4
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	4

①課題 ・学外の企業、団体からいただける依頼・案件にばらつきがあり、取り組みが安定しない。
②今後の改善方策 ・本学の特長でもある産学官連携での地域貢献活動を通して、本学学生の活動や取り組みを広く知ってもらい、広報活動にも繋げていく。また、コンスタントに連携ができる企業、団体を作っていく必要があると考えている。
③特記事項 ・学校の施設を活用した高校生 ICT カンファレンスの実施や、検定会場としての実施などは定期的に行えている。 ・県からの委託事業（離職者訓練、長期人材育成）を受け入れている。 ・静岡県職業教育振興会主催による「お仕事体験フェア」では、6月と12月の2回、学生主体で子どもたちにプログラミング、ロボット製作を教える活動ができた。 ・姉妹校第一ひかり幼稚園にて、I C Tキッズ（パソコンを用いたマウス操作によるプログラミング体験）を実施した。 ・地域イベント（「森下ときめき収穫祭」）に本学としてゲーム体験・ロボット製作体験のブースを出店し、多くの来客に楽しんでもいただき、地域に向けて本学の PR ができた。

（学校関係者評価委員による評価）

・ゲームについて、静岡県 e スポーツ連合が地方自治体と連携して、高齢者のゲームを展開している。学生が連携事業としてゲーム開発をしてみてはどうか。IT×福祉の強みを活かすことができる。

（11）国際交流

評価項目	評価	外部評価
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3	3
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	4
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	4
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	4

①課題 ・外国人留学生の学習支援、生活指導等の課題整理は引き続き途上である。

・コロナ時期の影響が大きく、外国人留学生からの出願がほぼない。
②今後の改善方策 ・留学生支援の体制を整備し、本学が求める条件をクリア可能な留学生の受け入れを行っていく。
③特記事項 ・IT ゲーム＆ロボットシステム学科は「外国人留学生キャリア形成促進プログラム」の文部科学大臣認定を受けている。 ・留学生に対する日本語能力試験への対応をサポートしている。 ・留学生専用の入学選考の流れを構築、説明資料等も整備し、オープンキャンパス来校時に適切に対応している。

（学校関係者評価委員による評価）

- ・思っていたよりも学外活動が多く、継続していることも素晴らしい。貴重なつながりなので、引き続き活かしてほしい。
- ・キャンパスライフを楽しむのもいいが、学生の本分は技術・知識を身につけること。他人を変えるのは難しいが、伝えるのが大人の義務。企業側も支援するので、学ぶ意欲の灯をともらしたい。

以 上